

船橋里山連絡会・研修会「きのこ博士と歩く船橋の森のきのこ」

大項目	小項目	内 容
活動日時		2018年 10月28日(日) 10:00~15:00 晴
活動の記録	活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・船橋里山連絡会の研修会、「きのこ博士と歩く船橋の森のきのこ」を実施 講師：吹春俊光(千葉県立中央博物館植物科長) ・10:00~開会、興松会長挨拶と講師紹介 ・10:05~12:00 吹春先生の自己紹介と「きのこの自然誌」を講演 ・12:00~13:10 栗林へ移動、昼食休憩 ・13:10~14:00 ブリサ管理地の森林できのこ狩り ・14:00~14:50 栗林できのこの同定、先生の解説、終了の挨拶 ・14:50~15:00 後片付け
	講演の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○きのこ・菌類とは何か？—きのこはカビの花、胞子で殖える、菌糸でできている ・世界最大のきのこ？寿命？—菌糸の面積が15ha、重さ10~100トン、1,500年以上 ・きのこは植物か動物か？—ホイタカー—の五界説で菌類、動物に近縁 ・きのこの代表類は担子菌類(マイタケ、マツタケ、シメジ、キクラゲ等、シャキシャキ感の食感)、子囊菌類(酵母、アカパンカビ、チャワンタケ、アミガサタケ、トリュフ等) ・世界に分布するきのこ。ベニテングタケが北半球から南半球へ。 ・腐生と菌根—実生の時から外生菌根をつくる高等植物(マツ科、ブナ科、カバノキ科) ・森はきのこ無しでは生きていけない。森の掃除屋。共生—菌根菌 ・ラン菌—鉢植えできる、木材腐朽菌から、外生菌根菌から、 ・里山ときのこの関係—房総を例に、昔は松林、今シイ、カシ林。里山はきのこでコントロールされたら森。 ・興味あるクイズを挟み面白く、優しく講演。 ○近くのブリサの管理地で、きのこ狩り。見つけたキノコを先生から特徴や同定の注意の解説があり、分かりやすかった。見られたキノコは次の通り。 ハウロクタケ、モリノカレバタケ、ニガリタケ、アセタケの仲間、シイタケ、ウズラタケ、クヌギタケの仲間、ツエタケの仲間、エノキタケ、ナラタケ、キツネノカラカサ、ヌメリカラカサタケ(白)、ヒメムキタケ、ベニタケ属、ノウタケ、カワラタケ、スエヒロタケ、カイガラタケ、キアシグロタケ、アラゲキクラゲ、クロコブタケ、ザラミノシメジ、カキシメジ、スギエダタケ
参加者	会員：興松、石田、野本、安斎、米澤、金城、ブリサ6名、木の子の森1名、計13名 一般参加者：25名(子供5、大人20) (敬称略) 講師：吹春先生 1名	会員 13名 合計 39名